

専門基礎分野：人体の構造と機能

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
人体の構造と機能 I	非常勤講師	1 年次前期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標			
1. 人体の基本構造と機能を理解する。 2. 運動器系の構造と運動のしくみを理解する。 3. 神経系の構造と機能を理解する。			
教科書			参考文献
1) 坂井健雄、岡田隆夫：系統看護学講座専門基礎分野 [1] 人体の構造と機能[1]解剖生理学、医学書院。			2) 高橋長雄：新版 からだの地図帳、講談社。
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容等	授業方法
第 1 回～ 2 回	人体の基本構造と機能	1. 最小単位である細胞の構造と機能 2. 細胞の集合体である組織、器官、器官系 3. 人体の植物機能と動物機能 4. 体液とホメオスターシス	講義
第 3 回～ 8 回	運動器系の構造と運動のしくみ	1. 骨格とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 骨格筋 4. 体幹の骨格と筋 5. 上肢の骨格と筋 6. 下肢の骨格と筋 7. 頭頸部の骨格と筋 8. 筋の収縮 9. 骨格筋収縮の種類と特性 10. 不随意筋の収縮の特徴	講義
第 9 回～ 1 4 回	神経系の構造と機能	1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄と脳 3. 脊髄神経と脳神経 4. 脳の高次機能 5. 運動機能と下行伝導路 6. 感覚機能と上行伝導路 7. 目の構造と視覚 8. 耳の構造と聴覚・平衡覚 9. 味覚と嗅覚 10. 疼痛	講義
第 1 5 回	筆記試験		

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
人体の構造と機能Ⅱ		非常勤講師	1 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標				
1．口・咽頭・食道の構造と機能を理解する。 2．腹部消化器管の構造と機能を理解する。 3．膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能を理解する。 4．内分泌系のしくみを理解する。				
教科書			参考文献	
1) 坂井健雄、岡田隆夫：系統看護学講座専門基礎分野 [1] 人体の構造と機能[1]解剖生理学、医学書院.			2) 高橋長雄：新版 からだの地図帳、講談社.	
評価方法				
筆記試験				
授業計画				
回	単元	授業内容等		授業方法
第 1 回～ 2 回	口・咽頭・食道の構造と機能	1．口の構造と機能 2．咽頭と食道の構造と機能		講義
第 3 回～ 6 回	腹部消化管の構造と機能	1．胃の構造と機能 2．小腸の構造と機能 3．栄養素の消化と吸収 4．大腸の構造と機能		講義
第 7 回～ 9 回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	1．膵臓の構造と膵液 2．肝臓と胆嚢の構造 3．肝臓の機能		講義
第 10 回	腹膜	1．腹膜と腸間膜 2．腹膜と内臓の位置関係 3．胃の周辺の間膜		講義
第 11 回 ～ 14 回	内臓機能の調節	1．自律神経による調節 2．内分泌系による調節 3．全身の内分泌線と内分泌細胞 4．ホルモン分泌の調節 5．ホルモンによる調節に実際		講義
第 15 回	筆記試験			

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
人体の構造と機能Ⅲ		非常勤講師	1 年次後期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標				
1． 体液の調節と尿の生成を理解する。 2． 皮膚の構造と機能を理解する。 3． 生体防御機構を理解する。 4． 体温とその調節を理解する。				
教科書			参考文献	
1) 坂井健雄、岡田隆夫：系統看護学講座専門基礎分野 [1] 人体の構造と機能[1]解剖生理学、医学書院.			2) 高橋長雄：新版 からだの地図帳、講談社.	
評価方法				
筆記試験				
授業計画				
回	単元	授業内容等		授業方法
第 1 回～ 8 回	体液の調節と尿の生成	1． 腎臓 1) 腎臓の構造と機能 2) 糸球体の構造と機能 3) 尿細管の構造と機能 4) 傍糸球体装置 5) クリアランスと糸球体濾過装置 6) 腎臓から分泌される生理活性物質 2． 排尿路 1) 排尿路の構造 2) 尿の貯蔵と排尿 3． 体液の調節 1) 水の出納 2) 脱水 3) 電解質の異常 4) 酸塩基平衡		講義
第 9 回～ 1 4 回	外部環境からの防御	1． 皮膚の構造と機能 2． 生体防御機構 1) 非特異的防御機構 2) 特異的防御機構－免疫 3) 生体防御の関連臓器 3． 体温とその調節		講義
第 1 5 回	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
人体の構造と機能Ⅳ	非常勤講師	1 年次前期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標			
1. 循環器系（1）心臓の構造と機能を理解する。 2. 循環器系（2）血管系とリンパ系の構造と機能を理解する。 3. 呼吸器系の構造と機能を理解する。 4. 血液の組成と機能を理解する。 5. 生殖器の構造と機能を理解する。			
教科書			参考文献
1) 坂井健雄、岡田隆夫：系統看護学講座専門基礎分野 [1] 人体の構造と機能[1]解剖生理学、医学書院.			2) 高橋長雄：新版 からだの地図帳、講談社.
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容等	授業方法
第 1 回～ 3 回	循環器系（1） 心臓の構造と機能	1. 心臓の構造 2. 心臓の機能 1) 興奮と伝播 心電図 3. 心臓の収縮機能 1) ポンプ機能 心拍出量 圧 心周期	講義
第 4 回～ 6 回	循環器系（2） 血管系とリンパ系の構造と機能	1. 血管の構造 2. 肺循環 3. 体循環の動脈 4. 体循環の静脈 5. 血液循環の調節 6. リンパとリンパ循環	講義
第 7 回～ 1 0 回	呼吸器系の構造と機能	1. 上気道の構造と機能 2. 下気道の構造と機能 3. 肺の構造と機能 4. 胸膜 胸郭 縦隔の構造と機能 5. 内呼吸 外呼吸 6. 呼吸運動と調節 7. 呼吸気量 8. ガス交換とガスの運搬 9. 呼吸機能と障害	講義
第 1 1 回 ～ 1 3 回	血液の組成と機能	1. 血液の組成と機能 造血と分化 2. 赤血球・白血球・血小板 3. 血漿たんぱく 4. 血液凝固と繊維素溶解 5. 血液型	講義
第 1 4 回	生殖器の構造と機能	1. 男性生殖器 2. 女性生殖器	講義
第 1 5 回	筆記試験		

目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護形態機能学	専任教員	1 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 人体の基本的構造と機能を理解する 2. 人のからだはどのように日常生活行動を行っているか理解する 3. 日常生活行動から人体のしくみを理解する			
教科書			
1) 菱沼典子：看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版 2) 坂井健雄、岡田隆夫：系統看護学講座専門基礎分野[1] 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院 3) 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 4) 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 5) 田中越郎：イラストで学ぶ生理学, 第4版, 医学書院			
評価方法			
筆記試験 課題レポート (100%)			
授業計画			
回	単 元	授業内容	授業方法
第 1-4 回	何のための生活行動か 恒常性維持のための 物質の流通 調節機構 外部環境とからだ 身体に関連する圧力・ 濃度・単位・換算	1. 生きているとは 2. 内部環境の恒常性（浸透圧と体液移動） 3. 生命維持と生活行動 1. 流通の媒体(血液) 2. 流通路 3. 流通の原動力 1. 神経性調節 2. 液性調節 3. ストレスと恒常性維持 1-3 章まとめ 1. 人類発生時の環境と今 1. 臨床で活用する単位と換算	講義 演習
第 5-6 回	動く 眠る	1. 姿勢 反射 随意運動 2. 骨格・骨格筋・関節 3. 日常生活での基本的動き 1. 人はなぜ眠くなるのか 2. サーカディアンリズム 3. 眠り 4. 睡眠の主観的評価	
第 7-8 回	話す・聞く	1. 声を出す 2. 聞く 3. 言葉	
第 9-10 回	食べる トイレに行く	1. 食欲・食行動 2. 咀嚼・嚥下 3. 消化と吸収 4. 何をどれだけ食べるか 1. 排尿 2. 排便	
第 11-12 回	息をする	1. 息を吸う・吐く 2. ガス交換	
第 13-14 回	お風呂に入る	1. 垢を落とす 2. 皮膚と付属物 3. 皮膚と粘膜 4. 温まる	
第 15 回	筆記試験		

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
病理学	医師	1 年次後期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標			
疾病の原因や発生病理および形態と機能、代謝変化の原因を理解する。			
教科書		参考文献	
坂本穆彦他：系統看護学講座専門基礎分野 4 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学、医学書院.		山口和克：新版 病気の地図帳、講談社.	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	授業内容		授業方法
第 1 回	病理学とは		講義
第 2 回	循環器障害		
第 3 回	腫瘍		
第 4 回	代謝障害		
第 5 回	炎症と免疫、感染症		
第 6 回	先天異常と遺伝子異常		
第 7 回	循環器疾患		
第 8 回	血液・造血器系の疾患		
第 9 回	呼吸器系の疾患		
第 1 0 回	消化器系の疾患		
第 1 1 回	脳神経系の疾患、筋系疾患		
第 1 2 回	腎・泌尿器系の疾患		
第 1 3 回	生殖器・乳腺・内分泌系の疾患		
第 1 4 回	骨関節疾患、耳・眼・皮膚疾患		
第 1 5 回	筆記試験		

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
疾病と治療Ⅰ	医師3名	2年次後期	1単位／30時間
科目目標			
1. 循環器疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 2. 循環器疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 3. 呼吸器疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 4. 呼吸器疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。			
教科書			参考文献
1) 上塚芳郎他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[3]循環器、医学書院。 2) 浅野浩一郎他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[2]呼吸器、医学書院。			
授業方法			
講義			
評価方法			
授業科目の加重平均を成績とする。 オムニバス形式の講義なので単元毎または講師毎に成績評価を行うのでガイダンスの説明をよく理解すること			
授業計画			
回	授業科目	授業内容	評価
第1回 ～5回	循環器疾患と治療 1（内科系）	1. 循環器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 1) 動悸 2) 胸痛 3) 呼吸困難 4) 浮腫 5) 失神 6) チアノーゼ 3. 検査と治療・処置 1) 診察 2) 心エコー 3) 心電図 4) 心臓カテーテル法 5) 内科的治療 4. 疾患と治療 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 心筋症	筆記試験
第6回 ～10回	循環器疾患と治療2 （外科系）	1. 疾患と治療 1) 先天性心疾患 2) 虚血性心疾患 3) 心内膜炎と弁膜疾患 4) 閉塞性動脈硬化症 5) 大動脈瘤 6) 静脈瘤	筆記試験
第11回 ～15回	呼吸器疾患と治療	1. 呼吸器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 1) 呼吸困難 2) 咳・咳嗽 3) 血痰・喀血 4) 嚔声 5) 胸痛 3. 検査 1) 診察 2) 胸部単純X線検査 4. 疾患と治療 1) 閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患 2) 気管支喘息 3) 感染症 間質性肺炎など 3) アレルギー疾患 4) 腫瘍 胸膜疾患	筆記試験

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
疾病と治療Ⅱ	医師4名	2年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 消化器疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 2. 消化器疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 3. 神経系疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 4. 神経系疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。			
教科書			参考文献
1) 金田智他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[5]消化器、医学書院。 2) 井手隆文他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[7]脳・神経、医学書院。			
授業方法			
講義			
評価方法			
授業科目の加重平均を成績とする。 オムニバス形式の講義なので単元毎または講師毎に成績評価を行うのでガイダンスの説明をよく理解すること			
授業計画			
回	授業科目	授業内容	評価
第1回 ～5回	消化器疾患と治療1 (内科系)	1. 消化器の構造と機能 2. 食道・胃・十二指腸 1) 食道疾患 食道癌 食道アカラジア 胃食道逆流症 2) 胃・十二指腸疾患 急性胃炎 慢性胃炎 胃十二指腸潰瘍 胃癌 3. 小腸と大腸 1) 腸の疾患 感染性腸炎 潰瘍性大腸炎 クーロン病 腸結核 虚血性大腸炎 2) 腹膜炎 急性腹膜炎 慢性腹膜炎 3) 虫垂炎 4) ヘルニア 5) 腸閉塞 6) 憩室 メッケル憩室 結腸憩室 7) ポリープ 大腸ポリープ ポロポーシス 8) 大腸癌・直腸癌 9) 肛門疾患 鎖肛 痔核 裂肛 痔瘻 直腸脱 10) 下痢 11) 便秘 4. 肝臓 1) 肝臓の疾患 肝硬変 門脈圧亢進症 食道・胃静脈瘤 肝臓癌 肝炎 2) 肝機能検査 5. 胆道・膵臓 1) 胆嚢の疾患	筆記試験

		胆石症 急性胆嚢炎 閉塞性急性胆管炎 胆管癌 胆嚢癌 胆嚢ポリープ 2) 膵臓の疾患 急性膵炎 慢性膵炎 膵臓癌	
第6回 ～10回	消化器疾患と治療2 (外科系)	1. 消化器外科の手術の基本 2. 食道の疾患と外科的治療 1) 食道癌 食道癌の手術 食道癌手術後の合併症 2) 食道アカラシア 3) 食道裂孔ヘルニア 3. 胃の疾患と外科的治療 1) 胃癌 胃癌の手術 胃癌の補助療法 2) 胃十二指腸潰瘍 外科的治療 3) 胃粘膜下腫瘍 4. 腸の疾患と外科的治療 1) 急性虫垂炎 2) 大腸癌 大腸癌の手術 大腸癌の補助療法 3) 潰瘍性大腸炎 4) クロウン病 5. 肝臓疾患と外科的治療 1) 肝膿瘍 2) 肝癌 肝臓の手術 3) 門脈圧亢進症 食道静脈瘤の手術 6. 胆道の疾患と外科的治療 1) 胆石症 腹腔下胆嚢摘出術 2) 急性胆嚢炎 3) 閉塞性黄疸 4) 胆管癌・胆嚢癌 7. 膵臓の疾患と外科的治療 1) 急性膵炎 2) 慢性膵炎 3) 膵癌 8. 肛門の疾患と外科的治療 1) 痔核 2) 裂肛 9. その他の疾患と外科的治療 1) 腸閉塞症 2) ヘルニア 3) 急性腹症 4) 乳癌 10. 手術前の準備 術前処置 術後管理	筆記試験
第11回 ～13回	神経系疾患と治療1 (内科系)	1. 末梢神経障害 2. 糖尿病性ニューロパシー 3. ギラン・バレー症候群 4. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 5. 重症筋無力症 (MG) 6. 多発性硬化症 (MS) 7. 神経性疾患 8. パーキンソン病 9. 脊髄小脳変性症 10. 神経系感染症 11. 脳炎 12. 髄膜炎 13. てんかん	筆記試験
第14回 ～15回	神経系疾患と治療2 (外科系)	1. 神経系疾患の症状と病態整理 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア	筆記試験

		2. 神経系疾患の検査・診断 3. 脳疾患と治療 1) 脳血管障害 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷 4. 脊髄疾患と治療 1) 頸椎症・腰椎症 2) 脊髄腫瘍	
--	--	---	--

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
疾病と治療Ⅲ	医師 3 名	2 年次前期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標			
1. 代謝疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 2. 代謝疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 3. 内分泌系疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 4. 内分泌系疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 5. 血液・造血器疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 6. 血液・造血器疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。			
教科書			参考文献
1) 黒江ゆり子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[6] 内分泌・代謝、医学書院。 2) 飯野京子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[4] 血液・造血器、医学書院。			
授業方法			
講義			
評価方法			
授業科目の加重平均を成績とする。 オムニバス形式の講義なので単元毎または講師毎に成績評価を行うのでガイダンスの説明をよく理解すること			
授業計画			
回	授業科目	授業内容	評価
第 1 回 ～ 5 回	内分泌疾患と治療	1. 内分泌器官の構造と機能 2. 内分泌疾患の検査 3. 内分泌系疾患と治療 1) 甲状腺疾患 2) 副甲状腺疾患 3) 副腎疾患 4) 下垂体疾患 5) 視床下部/下垂体疾患	筆記試験
第 6 回 ～ 1 0 回	代謝疾患と治療	1. 代謝器官の構造と機能 2. 代謝疾患の検査 3. 代謝疾患と治療 1) 糖尿病 2) 脂質異常症 3) 肥満症とメタボリックシンドローム 4) 尿酸代謝異常	筆記試験
第 1 1 回 ～ 1 5 回	血液・造血器疾患と治療	1. 血液の機能と造血のしくみ 2. 検査と治療 1) 骨髄穿刺 2) 造血幹細胞移植 3) 輸血 4) 化学療法 3. 赤血球系の異常 1) 鉄欠乏性貧血 2) 巨赤芽球性貧血 3) 溶血性貧血 4) 再生不良性貧血 4. 白血球系の異常 1) 白血球減少症 2) 白血病 3) 悪性リンパ腫 4) 多発性骨髄腫 5) 骨髄異形成症候群 6) 骨髄増殖性腫瘍 5. 血小板系，凝固系の異常 1) 特発性血小板減少性紫斑病 2) 播種性血管内凝固症候群 3) 血友病	筆記試験

第11回 ～15回	血液・造血器疾患 と治療	1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 検査と治療 1) 骨髄穿刺 2) 造血幹細胞移植 3) 輸血 4) 化学療法 3. 赤血球疾患 1) 貧血 2) 鉄欠乏性貧血 3) 巨赤芽球性貧血 4) 溶血性貧血 5) 再生不良性貧血 4. 白血球疾患 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫 3) 多発性骨髄腫 4) 骨髄異形成症候群 5. 骨髄増殖性疾患 1) 骨髄増殖性腫瘍 2) 顆粒球減少症 6. 血小板系疾患 1) 特発性血小板減少性紫斑病 2) 播種性血管内凝固症候群 3) 血友病	筆記試験
--------------	-----------------	--	------

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
疾病と治療Ⅳ	医師 6 名	2 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 運動器系疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 2. 運動器系疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 3. 腎疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 4. 腎疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 5. 免疫機能障害がもたらす身体内部の変化を理解する。 8. 免疫機能障害の検査・診察・治療の過程を理解する。 6. 感覚器疾患（視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚・皮膚）がもたらす身体内部の変化を理解する。 7. 感覚器疾患（視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚・皮膚）の検査・診察・治療の過程を理解する。			
教科書			参考文献
1) 織田弘美他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[10] 運動器、医学書院。 2) 大東貴志他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[8] 腎・泌尿器、医学書院。 3) 岩田健太郎他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[11]アレルギー-膠原病感染症、医学書院。 4) 大鹿哲朗他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[13]眼、医学書院。 5) 小松浩子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[14]耳鼻咽喉、医学書院。 6) 佐藤博子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[12]皮膚、医学書院。			
授業方法			
講義			
評価方法			
授業科目の加重平均を成績とする。 オムニバス形式の講義なので単元毎または講師毎に成績評価を行うのでガイダンスの説明をよく理解すること			
授業計画			
回	授業科目	授業内容	評価
第 1 回 ～ 4 回	運動器疾患と治療	1. 骨・関節・筋肉疾患の検査・診察方法 2. 骨・関節・筋肉の疾患と治療 1) 骨折 2) 骨粗鬆症 3) 骨の腫瘍 4) 変形性関節症	筆記試験
第 5 回 ～ 7 回	腎疾患と治療	1. 腎疾患の検査・診察方法 2. 腎の疾患と治療 1) 腎炎 2) 腎腫瘍 3) 腎不全 3. 透析（血液浄化）	筆記試験
第 8 回 ～ 9 回	免疫機能障害と治療	1. 免疫のしくみとアレルギー 2. 膠原病 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) 多発性筋炎、皮膚筋炎 4) シェーグレン症候群 5) ベーチェット病	筆記試験
第 10 回 ～ 15 回	感覚機能の障害と治療	1. 視覚の障害の検査・診察方法 2. 視覚の障害と治療 1) 前眼部疾患 白内障 緑内障 2) 屈折異常 3) 硝子体・網膜疾患 4) 眼外傷 5) 全身性疾患と眼	レポート

		1. 聴覚・平衡覚の検査・診察方法 2. 耳の疾患と治療 3. 鼻腔・咽頭・喉頭の疾患	レポート
		1. 皮膚疾患と治療 1) 湿疹・皮膚炎 2) 熱傷 3) 腫瘍 2. 全身性疾患と皮膚	筆記試験

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
疾病と治療Ⅴ	医師 2 名	2 年次後期	1 単位／ 1 5 時間
科目目標			
1. 泌尿器疾患がもたらす身体内部の変化を理解する。 2. 泌尿器疾患の検査・診察・治療の過程を理解する。 3. 生殖機能障害がもたらす身体内部の変化を理解する。 4. 生殖機能障害の検査・診察・治療の過程を理解する。			
教科書			参考文献
1) 大東貴志他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[8] 腎・泌尿器、医学書院。 2) 池田正他：系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[9] 女性生殖器、医学書院。			
授業方法			
講義			
評価方法			
授業科目の加重平均を成績とする。 オムニバス形式の講義なので単元毎または講師毎に成績評価を行うのでガイダンスの説明をよく理解すること			
授業計画			
回	授業科目	授業内容	評価
第 1 回 ～ 4 回	泌尿器疾患と治療	1. 泌尿器疾患の検査・診察方法 2. 泌尿器の疾患と治療 1) 尿路の炎症 2) 尿路の腫瘍 3. 男性生殖機能障害	筆記試験
第 5 回 ～ 8 回	女性生殖器疾患と治療	1. 女性生殖器の疾患の検査・診察 1) 外陰の疾患と治療 2) 膣の疾患 3) 子宮の疾患 4) 卵管・卵巣疾患 5) 月経異常	筆記試験

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
薬理学	薬剤師	1 年次後期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標			
臨床で使用する医薬品について、薬理作用の基礎知識を培い、薬剤の特徴、作用機序、副作用、人体への影響をはじめ、薬剤（医薬品）の保管管理について理解する。			
教科書			参考文献
1)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 2)新訂版パワーアップ問題演習薬理学第2版			
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回～ 4回	薬理学総論	1. 薬物治療の目ざすもの 2. 医薬品の薬理作用 3. 吸収、分布、代謝、排泄、血中濃度、生物学的半減期（体内動態） 4. 薬剤に影響する因子、薬物中毒（薬害）、医療事故 5. 医薬品の保管・管理と新薬開発、医薬品情報	講義
第5回～ 14回	薬理学各論	1. 感染症治療に用いる薬剤 2. 抗がん薬 3. 免疫治療薬 4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5. 末梢神経系・中枢神経系に作用する薬剤 6. 心臓・血管系に作用する薬剤 7. 呼吸器系に作用する薬剤 8. 消化器系に作用する薬剤 9. 生殖器系に作用する薬剤 10. 物質代謝に作用する薬剤 11. 皮膚科用薬・眼科用薬 12. 救急の際に使用する薬剤 13. 漢方薬 14. 消毒薬	
第15回		筆記試験	

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
生化学	非常勤講師	1 年次前期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標			
1．生化学、分子生物学の基礎を理解する。 2．生命維持に必要な栄養素の構造と性質について理解する。 3．酵素の性質および役割について理解する。 4．物質代謝とエネルギー生成について理解する。 5．遺伝子の構造とその生化学的役割について理解する。			
教科書		参考文献	
1) 三井和浩他：ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能② 臨床生化学、メディカ出版.		1) 板部洋之他：NEW生化学、廣川書店. 2) 田宮信雄他訳：コーン・スタンプ生化学、東京化学同人.	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	授業内容等		授業方法
第 1 回	代謝総論		講義
第 2 回	生命維持に必要な栄養素：糖質		
第 3 回	生命維持に必要な栄養素：脂質		
第 4 回	生命維持に必要な栄養素：アミノ酸とタンパク質		
第 5 回	生命維持に必要な栄養素：核酸とヌクレオチド		
第 6 回	生命維持に必要な栄養素：ビタミン		
第 7 回	酵素の役割、性質、分類		
第 8 回	糖質代謝		
第 9 回	脂質代謝		
第 1 0 回	タンパク質代謝		
第 1 1 回	核酸・ヌクレオチド代謝		
第 1 2 回～ 1 3 回	遺伝情報（1） 遺伝情報（2）		
第 1 4 回	代謝と疾患		
第 1 5 回	筆記試験		

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
微生物と感染		非常勤講師	1 年次前期	1 単位／ 3 0 時間
科目目標				
1．微生物、病原微生物の基礎知識を学ぶ。 2．滅菌及び消毒の知識を学ぶ。 3．微生物感染に対する治療、予防法としての抗生物質、抗ウイルス剤、ワクチンの知識を得る。 4．病原微生物と生体や細胞との関係を理解する。				
教科書			参考文献	
1) 南嶋洋一他：系統看護学講座専門基礎分野疾病の成り立ちと回復の促進[4]微生物学、 医学書院.				
評価方法				
筆記試験				
授業計画				
時間	授業内容			授業評価
第 1 回	細菌の分類と同定、病原性			講義
第 2 回 ～ 3 回	微生物の構造、機能、代謝			
第 4 回 ～ 5 回	化学療法と薬剤耐性、院内感染			
第 6 回 ～ 7 回	感染と防御			
第 8 回 ～ 9 回	細菌の種類と病態			
第 1 0 回 ～ 1 1 回	ウイルスの種類と病態			
第 1 2 回 ～ 1 3 回	環境と栄養			
第 1 4 回	感染症の予防・院内感染 免疫学			
第 1 5 回	筆記試験 まとめ			

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
治療論	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 放射線技師 臨床検査技師	1 年次後期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. リハビリテーション療法を学ぶ。 2. 放射線による検査・治療を学ぶ。 3. 臨床検査の基礎知識を学ぶ。			
教科書			参考文献
1) 落合芙美子：新体系看護学全書＜別巻＞リハビリテーション看護、メヂカルフレンド社。 2) 福田国彦他：系統看護学講座別巻臨床放射線医学、医学書院。 3) 大久保昭行：系統看護学講座別巻臨床検査、医学書院。			
授業方法			
講義、演習			
評価方法			
筆記試験 授業科目の加重平均点を成績とする オムニバス形式の講義なので単元毎又は講師毎に成績評価を行うのでガイダンスの説明をよく理解すること			
授業計画			
時間	授業科目	授業内容等	評価
第 1 回 ～ 7 回	リハビリテーション医療	1. リハビリテーション医療とは 2. リハビリテーションの基本となる知識 1) ADL 2) QOL 3) バリアフリーとユニバーサルデザイン 4) リハビリテーションチーム 5) 評価方法 3. 障害・疾病に伴うリハビリテーション 1) 脳血管障害の患者 2) 高次脳機能障害の患者 3) 脊髄損傷の患者 4) 関節リウマチの患者 5) パーキンソン病の患者 6) 言語障害のある患者 7) 摂食・嚥下障害のある患者 8) 廃用症候群のある患者 9) 呼吸障害のある患者 10) 運動器疾患の患者 4. 在宅療養する人のリハビリテーション	筆記試験
第 8 回 ～ 11 回	放射線検査と治療	1. 医療における放射線 2. 放射線検査・治療における安全性確保 3. 画像検査（X 線撮影、CT、MRI、超音波、核医学、IVR） 4. 放射線治療 1) 照射法の種類 2) 反応と耐用線量	筆記試験
第 12 回 ～ 15 回	臨床検査	1. 臨床検査における看護師の役割 2. 一般検査 3. 血液検査 4. 生化学検査 5. 輸血検査 6. 免疫検査 7. 細菌検査 8. 病理検査 9. 生理検査	筆記試験

専門基礎分野：疾病の成り立ちと回復の促進

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
栄養と食事療法		管理栄養士	1 年次後期	1 単位／ 30 時間
科目目標				
1. 栄養と食事療法の基礎的知識を学ぶ。 2. 食事療法の実際を学ぶ。				
教科書		参考文献		
1) 小野章史他：系統看護学講座専門基礎分野 [3]栄養学、医学書院.		1) 足立加代子他：系統看護学講座別巻栄養食事療法、医学書院. 2) 小笠原ゆり他：食品成分表、科学技術庁資源調査会編.		
授業方法				
講義				
評価方法				
筆記試験				
授業計画				
時間	単元	授業内容		授業方法
第1回	栄養学総論	1. 栄養を学ぶということ 2. 保健・医療における栄養学		講義
第2回	栄養素と種類とはたらき	1. 糖質 2. 脂質 3. タンパク質 4. ビタミン 5. ミネラル 6. 食物繊維 7. 水		
第3回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	1. 食物の消化		

第10回 ～14回	臨床栄養	3. 学童期における栄養 4. 思春期・青年期における栄養 5. 成人期における栄養 6. 妊娠期における栄養 7. 授乳期における栄養 8. 更年期における栄養 9. 高齢期における栄養	
第15回	健康づくりと食生活	1. チームで取り組む栄養管理 2. 栄養補給法 3. 病院食 4. 経腸栄養製品 5. 静脈栄養剤 6. 疾患・症状別食事療法の実践 7. 場面別の栄養管理 8. がんの食事療法 1. 食生活の変遷と栄養の問題点 2. 生活習慣病の予防 3. 食生活の改善への施策 4. 食の安全性と表示 試験	

専門基礎分野：健康支援と社会保障制度

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
社会保障・社会福祉Ⅰ	社会福祉士	1 年次後期	1 単位／15 時間
科目目標			
1． 社会保障や社会福祉の基本的な制度の考え方を理解する。 2． 保健・医療・福祉サービスの連携について理解する。			
教科書		参考文献	
1) 福田素生他：系統看護学講座 『社会保障・社会福祉』 健康支援と社会保障制度③医学書院.		内容に応じて適宜	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容	授業方法
第 1 回	社会保障と社会福祉 現代社会の変化と 社会保障・社会福祉の 動向	1.社会保障制度の概念・目的 2.社会福祉の法制度 3.現代社会の変化 4.社会保障・社会福祉の動向	講義
第 2 回	社会福祉の歴史	1.社会福祉の歴史の見方 2.イギリスの社会福祉の歴史 3.日本の社会福祉の歴史	
第 3 回 ～ 5 回	医療保障	1.医療保障制度の沿革 2.医療保障制度の構造 3.健康保険と国民健康保険 4.高齢者医療制度 5.保険診療のしくみ 6.公費負担医療 7.国民医療費	
第 6 回 ～ 7 回	介護保険	1.介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2.介護保険制度の概要 3.介護保険制度の課題と展望	
第 8 回	筆記試験	まとめ ※筆記試験終了後、解答解説講義	

専門基礎分野：健康支援と社会保障制度

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
社会保障・社会福祉Ⅱ	社会福祉士	2 年次前期	1 単位／15 時間
科目目標			
1． 社会保障や社会福祉の基本的な制度の考え方を理解する 2． 保健・医療・福祉サービスの連携について理解する。			
教科書		参考文献	
1) 福田素生他：系統看護学講座 『社会保障・社会福祉』健康支援と社会保障制度③医学書院.		内容に応じて適宜	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容	授業方法
第 1 回 ～ 2 回	所得保障	1.所得保障制度のしくみ 2.年金保険制度 3.社会手当 4.労働保険制度	講義
第 3 回	公的扶助	1.貧困・低所得者と公的扶助制度 2.生活保護制度の仕組み 3.低所得者対策 4.近年の動向	
第 4 回 ～ 5 回	社会福祉の分野とサービス	1.高齢者福祉 2.障害者福祉 3.児童家庭福祉	
第 6 回 ～ 7 回	社会福祉実践と医療・看護	1.社会福祉援助とは 2.個別援助技術(ケースワーク) 3.集団援助技術(グループワーク) 4.間接援助技術と関連援助技術 5.社会福祉援助の検討課題 6.連携の重要性 7.社会福祉実践と医療・看護との連携 8.連携の場面とその方法	
第 8 回	筆記試験	まとめ ※筆記試験終了後、解答解説講義	

専門基礎分野：健康支援と社会保障制度

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
公衆衛生学	非常勤講師	2 年次後期	1 単位／ 1 5 時間
科目目標			
公衆衛生の主要課題の現状とそれに対する施策について学び、公衆衛生の目的とその目的を達成するための方法を習得する。			
教科書			参考文献
1) 神津征峰他：系統看護学講座専門基礎分野健康支援と社会福祉制度 2 公衆衛生、医学書院。 2) 一般社団法人厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指標 増刊。			
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
第 1 回	公衆衛生の目的と歴史 人口統計・保健統計	公衆衛生の必要性和歴史を学ぶ 国勢調査、人口動態統計、各種保険統計の内容を理解し 利用法を学ぶ	講義
第 2 回	疫学概論 疫学調査（1）	疫学の歴史、その目的と方法を学ぶ 疫学調査法の実際を学ぶ	
第 3 回	疫学調査（2） 保健・医療・福祉行政	疫学調査法の実際を学ぶ 保健、医療、福祉行政を理解する	
第 4 回	母子保健 小児保健・学校保健	母子保健施策の現状を理解する 学童期から思春期までの保健施策の現状を理解する	
第 5 回	成人・高齢期保健 福祉施策	成人期から高齢期までの保健施策の現状を理解する 福祉施策の現状について理解する	
第 6 回	精神保健福祉 栄養・食品衛生	精神保健福祉施策の現状を理解する 公衆栄養施策と食品衛生の現状を理解する	
第 7 回	感染症対策 環境保健 産業保健 環境衛生法	主要な感染症対策の現状を理解する 環境保健の現状を理解する 産業保健の現状を理解する	
第 8 回		試験	

専門基礎分野：健康支援と社会保障制度

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
多職種連携	専任教員	2年次前期	1単位／15時間
科目目標			
保健医療福祉関連職の成り立ちを理解する。 病院・施設での多職種連携を理解する。 地域ケアでの多職種連携を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 茂野香おる他：系統看護学講座専門分野看護学概論，医学書院。 2) 河原加代子他：系統看護学講座専門分野地域・在宅看護の基盤地域・在宅看護論1，医学書院。 3) 河原加代子他：系統看護学講座専門分野地域・在宅看護の実践地域・在宅看護論2，医学書院。		1) 大嶋伸雄：はじめてのIP連携を学びはじめる人のためのIP入門，協同医書出版社，2018。 2) 野中猛：多職種連携の技術，中央法規，2014。 3) 篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル，医学書院，2011。	
評価方法			
筆記試験，レポート（100％）			
授業計画			
回	単 元	授業内容等	授業方法
第1回	保健医療福祉関連職のなりたち	1) 国家資格の誕生 2) 保健医療福祉関連職種とその根拠法 3) 業務独占と名称独占 4) 専門職としての保健医療福祉関連職	講義 演習
第2回	連携の概念と関係性	1) 連携の概念 2) 連携に必要な関係性 3) 連携の課題	
第3回 ～ 第4回	チーム医療	1) チーム医療とは 2) チーム医療の類型 3) チーム医療への期待と課題 4) チーム医療における看護師の役割	
第5回 ～ 第7回	多職種連携	1) 多職種連携とは 2) 多職種連携を阻害する要因 3) 職種内（診療科内・病棟内）での連携 4) 職種間連携 5) 部署間連携 6) 地域・在宅での連携	
第8回	試験		

専門基礎分野：健康支援と社会保障制度

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
健康教育論	保健師	1 年次後期	1 単位／ 1 5 時間
科目目標			
1．生活習慣病の予防と安全の正しい知識を理解する。 2．健康教育、生活指導、自己健康管理の方法を理解する。 3．疾病構造の動向を理解し、対象に合った健康教育の実際を学習する。			
教科書		参考文献	
1) 宮坂忠夫他：最新保健学講座別巻 1 健康教育論、メヂカルフレンド社.		1) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向、厚生労働統計協会.	
評価方法			
筆記試験（1 0 0 %）			
授業計画			
回	単 元	授業内容等	授業方法
第 1 回	健康とは 健康のとらえ方 健康教育について	1) 国民健康・栄養調査 2) 国民の健康状態 3) 健康日本 21	講義
第 2 回	生活習慣病の予防 健康教育の企画・実施・評価	1) 生活習慣と健康の関連 2) 生活習慣病の予防対策 4) 特定健康診査・保健指導	
第 3 回	健康教育の実際：生活習慣病① 食生活と健康 運動と健康	1) 健康教育の実際 食生活と健康 運動と健康	
第 4 回	健康教育の実際：生活習慣病② 睡眠と健康 アルコールや喫煙と健康	1) 健康教育の実際 睡眠と健康 アルコールや喫煙と健康	
第 5 回	健康教育の実施：メンタルヘルス ストレスと健康	1) ストレスの健康影響 2) ストレス関連疾患の予防と対応	
第 6 回	健康教育の実施： フィールドの理解・特徴 対象の理解・特徴	健康教育の実施に当たって、 フィールドの特徴を理解する フィールドや対象にあった教育の実際	
第 7 回	産業保健における健康課題 産業保健における健康教育	1) 職業性疾病および業務上疾病 2) 労働衛生対策 3) 産業保健活動の実際 4) 産業保健総合支援センター	
第 8 回	筆記試験 まとめ	筆記試験 まとめ	

専門基礎分野：健康支援と社会保障制度

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
医療と経済	非常勤講師	3年次前期	1単位／15時間
科目目標			
1. 医療経済を理解する上での基礎的な経済学的用語を理解する。 2. 日本の医療制度及び医療保険制度の仕組みや特徴について医療関係職種としての基礎的な知識を習得する。 3. 保健医療分野における経済学の特徴と、その応用としての臨床経済学の基礎を理解する。 4. 様々な国の医療制度の違いを、国際的に理解する。			
教科書		参考文献	
なし 配布資料の活用		1) 康永秀生：経済学を知らずに医療ができるか？医療従事者のための医療経済学入門：金芳堂	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回～ 2回	医療経済学の概観 経済学の理論	命の値段 マクロ経済とミクロ経済 市場における価格の決定	講義
第3回～ 4回	医療経済学の基礎	医療サービスの特殊性 医療サービスにおける情報の非対称性 モラルハザード 医療分野の規制	
第5回～ 6回	医療の仕組みと経済	社会保障と国民医療費 医療費増加の要因 国民医療費抑制政策 医療の無駄 医療技術の効果と費用	
第7回	医療の仕組みと経済	診療報酬制度	
第8回		まとめ 筆記試験	